

溶連菌感染症が増えてきています

●溶連菌（溶血性レンサ球菌）は、子どもからうつることが多く、38～39℃の突然の高熱、激しいのどの痛み、全身の発疹、イチゴ舌などが主な症状です。

●感染から発症までの潜伏期間は2～5日程度で、潜伏期間中は体内で菌が増殖している段階のため、自覚症状は全くありません。この時は周囲への感染の可能性も低いです。一般の風邪とは異なり、突然発熱・咽頭痛が出現します。家庭内での感染率はおよそ20～60%と非常に高いです。

どう予防するかが大切！！

●溶連菌感染についてはワクチンがないため「飛沫感染」「接触感染」の遮断が基本です！帰宅後の手洗い・うがいを徹底し、必要時マスクの着用も有効です。

家庭内感染が起きた場合は、タオルの共有を避けましょう。まめに手洗いを行きましょう。

溶連菌感染
のどの痛みや発熱が主な症状です

子どもに多くみられる感染症です

主な症状

- 1 のどの痛み
- 2 発熱
- 3 赤く腫れたのど (いちご舌になることも)
- 4 発疹
- 5 頭痛・だるさ
- 6 吐き気・嘔吐 (まれにみられます)

症状のポイント

- 突然の高熱（38～40℃）と、のどの強い痛みが特徴です。
- のどが赤く腫れ、白いぶつぶつ（膿）がつくことがあります。
- いちごのように舌が赤くブツツになることがあります。
- 体や顔に赤い発疹が出る場合があります。
- 子どもに多く、集団生活の中でうつりやすいです。

早めの受診が大切です

放っておくと合併症を起すことがあります。気になる症状があるときは、早めに小児科を受診しましょう。

手洗い・うがいをしっかりと、予防を心がけましょう！

コロナでもインフルエンザでもない風邪が増えています

●GW 前後より、福岡を中心に、「のどの痛み」「長引く咳」「声がれ」「痰の増加」などといった風邪症状を訴える方が急増しました。山梨県でも同様の症状で開業医に受診する方が増えています。コロナやインフルエンザの検査を行っても陰性となっています。しかし、身体のだるさが強く、かなりつらい症状が続いています。風邪を引き起こすウイルスや細菌はたくさんあります。基本的な感染対策をしっかり行い、症状の改善が見られない時には医療機関へ受診・相談をしましょう。

山梨県内の感染症の動向

- 水痘の感染が富士東部管内で注意報レベルとなっていますが、他の地域では増加はありません。
- 感染性胃腸炎⇒集団発生の報告はなく、感染報告も横ばいで経過しています。
- 溶連菌感染の報告が増えています。